

令和6年度

丹沢大山ボランティアネットワーク  
活動報告書

# 目 次

## I 丹沢大山ボランティアネットワーク事業報告

- 1 水質調査
- 2 瓦版の発行
- 3 講演会・交流会

## II 会員団体活動掲示板

山綾会

NPO法人 自然塾丹沢ドン会

NPO法人 みろく山の会

NPO法人 野生動物救護獣医師協会神奈川支部

町田グlaus山の会

NPO法人 丹沢自然学校

NPO法人 野生動物救護の会

丹沢環境推進会議

## III 世話人会の活動報告

# I 事業報告

1 水質調査

2 瓦版の発行

118号、119号、120号、121号

3 講演会・交流会

※ 瓦版（120号）参照

令和6年度水質調査結果一覧 <上段:検査項目 中段:単位 下段:水質基準(参考)>

調査地点	採水日	硝酸態窒素及 亜硝酸態窒素											水場周辺の状況				気象の状況			
		一般細菌	大腸菌	亜硝酸態窒素	硝酸態窒素	塩化物イオン	有機物	pH値	味	臭気	色度	濁度	ゴミ散乱	野外排泄	トイレ	水場種類	天候 当日	天候 前日	気温 ℃	水温 ℃
		CFU/ml	-	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	-	-	-	度	度								
		100CFU/ml以下	検出されないこと	0.04mg/l以下	10mg/l以下	200mg/l以下	3mg/l以下	5.8以上8.6以下	異常でないこと	異常でないこと	5度以下	2度以下								
1 半原越付近	5月26日	12	不検出	0.004未満	0.4	2.2	0.3未満	6.8	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水	曇	曇	21	14
2 日向林道起点水場	4月21日	0	不検出	0.004未満	0.5	1.4	0.3未満	7.4	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水	晴	晴	18	14
3 護摩屋敷跡	5月23日	0	不検出	0.004未満	0.4	1.2	0.3未満	7.2	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水	曇	曇	19	12
4 堂平沢	5月23日	89	検出	0.004未満	0.1	0.8	0.3未満	7.4	-	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	流水	曇	曇	15	12
5 原小屋平水場	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6 黍殻山避難小屋	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7 大山 弘法の水場	5月19日	0	不検出	0.004未満	0.4	1.5	0.3未満	7.1	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水	曇	晴	18	14
8 春嶽湧水	5月19日	0	不検出	0.004未満	0.5	1.7	0.3未満	7.2	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水	曇	晴	21	14
9 葛葉の泉	5月8日	0	不検出	0.004未満	0.5	1.9	0.3未満	7.3	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	あり、約20m下流	湧水	晴	雨	20	15
10 竜神の泉	5月8日	0	不検出	0.004未満	0.7	1.9	0.3未満	7.4	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	沢水	晴	雨	23	14
11 後沢乗越水場	5月25日	16	検出	0.004未満	0.3	1.1	0.3未満	7.2	-	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水	晴	晴	16	13
12 二俣の水場	5月25日	5	検出	0.004未満	0.3	1.1	0.3未満	7.3	-	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	沢水	晴	晴	17	13
13 大倉高原山の家水場	5月26日	0	不検出	0.004未満	0.3	1.3	0.3未満	7.2	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	流水	晴	晴	21	11
14 塔ノ岳水場	5月26日	0	不検出	0.004未満	0.1未満	0.9	0.3未満	7.4	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水	霧	晴	21	11
15 皆瀬川人遠	5月8日	15	検出	0.004未満	0.5	2.9	0.3未満	7.5	-	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	沢水	晴	雨	25	15
16 西丹沢県民の森	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17 仲ノ沢法面湧水	5月25日	0	不検出	0.004未満	0.4	1.3	0.3未満	7.1	正常	正常	1未満	0.5未満	落ち葉等	なし	なし	湧水、法面にパイプ	曇	曇	23	14
18 用木沢出合	6月13日	928	検出	0.004未満	0.3	1.0	0.3未満	7.6	-	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	流水	曇	曇のち晴	16	10
19 一軒屋避難小屋前水場	6月13日	101	検出	0.004未満	0.1	0.8	0.3未満	7.7	-	正常	1未満	0.5未満	ガラス片等	なし	なし	流水	曇	晴	18	10
20 犬越路ざい道水場	5月14日	10	不検出	0.004未満	0.2	1.2	0.3未満	7	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水、塩ビパイプ	晴	雨	14	12
21 犬越路 日陰沢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22 エビラ沢出合	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※大腸菌等が検出された箇所は、味の検査は不可

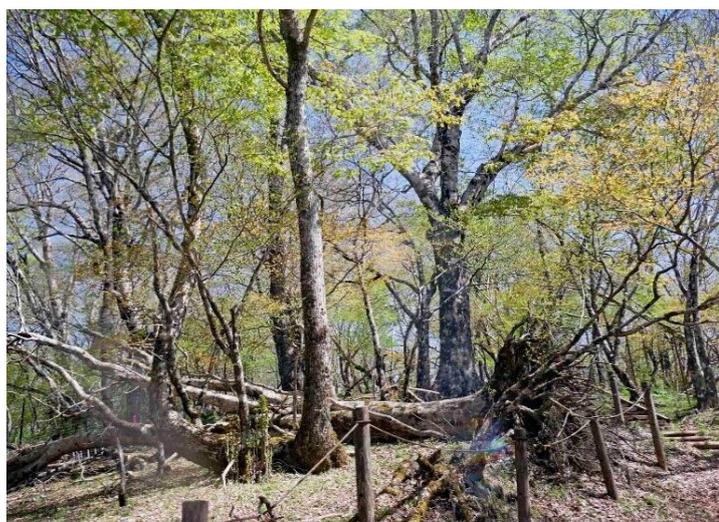
No5、6、16、21、22…断水、水道装置故障等のため採水できず

# 丹沢ボラネット瓦版

2024年6月号 No.118

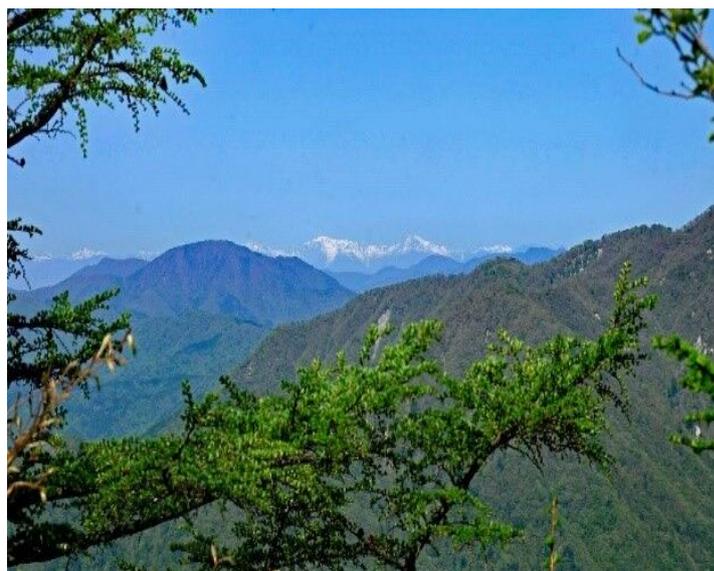


↑写真 丹沢山（1567m）西斜面は東斜面と比べて立ち枯れの木が目に入る R6、5、3



↑写真

鍋割山稜線、大丸付近の神々しいブナ林と倒木  
丹沢の貴重な自然遺産です。 R6. 5. 4



↑写真

鍋割山稜線からは丹沢深奥部の風景と白い残雪の  
南アルプスの山々が見える。尖った高い山は北岳か

R6. 5. 4

# 令和6年度丹沢大山ボランティアネットワーク総会

令和6年度総会は新型コロナウイルス感染症が5類感染症移行となり、自然環境保全センターでの4年ぶりの対面式総会が実現しました。

久しぶりでの対面総会なので、各参加団体から、団体の活動様子やボラネットへの思いなどを発表していただき、充実した総会になりました。

令和2年度、3年度、4年度、5年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大を防ぐため、電子文書とメールでの総会開催でした。

・今回の総会から新しい試みとして、ボランティア団体の総会らしく、大会資料は紙資料を少なくしプロジェクターを中心に据え、総会の運営をしました。

・議案4で規約改正が行われました。  
以上の二点が特徴的です。



## 令和6年度丹沢大山ボランティアネットワーク総会

日時 令和6年4月20日(土)

場所 自然環境保全センターレクチャールーム

- 1 令和5年度事業報告・決算報告(資料1. 2)
- 2 令和6年度事業計画・予算(案)(資料3. 4)
- 3 世話人の改選(資料5)
- 4 会則の一部改正(資料6)
- 5 その他

丹沢大山ボランティアネットワーク  
令和5年度(2023年度)決算報告

令和6年4月1日  
会計・遠藤順一

### 1. 収入の部

科目	予算	決算	予実差	備考
会費	54,000	45,846	-8,154	R5 年度会費
助成金	290,000	250,767	-39,233	丹沢の緑を育む集い実行委員会 水質調査
繰越金	59,482	59,482	0	
合計	403,482	356,095	-47,387	

### 2. 支出の部

科目	予算	決算	予実差	備考
水質調査	260,000	220,767	-39,233	
登山者意識調査	0	0	0	
外来種駆除活動	70,000	0	-70,000	行事中止
講演会	50,000	30,000	-20,000	10/21 に実施
世話人会運営費	53,000	18,870	-34,130	交通費、コピー代
丹沢大山自然再生委員会会費	10,660	10,000	-660	
予備費	23,502	0	-23,502	
合計	467,162	279,637	-187,525	

### 3. 収支

収入総額	支出総額	残高
356,095	279,637	76,458

令和5年度丹沢大山ボランティアネットワークの会計を監査しました。適正に執行されているものと認めます。

会計監査 栗林 弘樹 (印)  
会計監査 森島 真知子 (印)

## ↑写真 熱心に討論する総会の様子

令和6年度予算(案)

資料4

### 1 収入の部

科目	予算(A)	前年度予算額(B)	比較(A-B)	備考
会費	44,000	54,000	▲ 10,000	世話人会の運営、丹沢大山自然再生委員会会費には繰越金を充てる。
助成金	300,000	290,000	10,000	丹沢の緑を育む集い実行委員会 水質調査、講演会等
繰越金	76,458	59,482	16,976	
合計	420,458	403,482	16,976	

### 2 支出の部

科目	予算(A)	前年度予算額(B)	比較(A-B)	備考
水質調査	260,000	260,000	0	交通費補助、採水ビン送料、検定料等
講演会・交流会	40,000	30,000	10,000	講師謝金、事務用消耗品等
世話人会運営費	60,000	60,000	0	交通費補助、通信費等
丹沢大山自然再生委員会会費	11,000	11,000	0	会費、振込手数料等
予備費	49,458	42,482	6,976	
合計	420,458	403,482	16,976	

## 丹沢大山ボランティアネットワーク会則 (改正された部分赤字)

(名称)

第1条 本組織は、丹沢大山ボランティアネットワーク(以下「ネットワーク」という。)と称する。

(会員)

第3条 会員は目的に賛同するボランティア団体により構成する。

2 入会及び退会は、所定の書面による届け出とする。

3 2年間続けて総会への欠席及び会費の未納入があった会員は、当該年度末をもって退会とする。

4 前項により退会した団体が、再度入会を希望する場合は、再入会時に未納分の会費を納付するものとする。

(その他)

第11条 この会則に定めるものの他、ネットワークの運営に必要な事項は、世話人会で協議して定める。

附則

1 この会則は、平成14年8月4日から施行する。

2 この会則は、平成15年4月5日から施行する。

3 この会則は、平成19年4月8日から施行する。

4 この会則は、平成20年4月6日から施行する。

5 この会則は、平成31年4月20日から施行する。

6 この会則は、令和6年4月20日から施行する。



↑写真 会場 神奈川県自然環境保全センター

### 令和6年度丹沢大山ボランティアネットワーク総会結果(報告)

#### 1 日時・場所

令和6年4月20日(土) 13:30~15:00

神奈川県自然環境保全センター レクチャールーム

#### 2 出席団体数

回答 10 団体

#### 3 各議案の承認状況

すべての議案について、出席者(回答者)の過半数の賛成により、承認された。

(丹沢大山ボランティアネットワーク会則第7条第3項)

議案1: 令和5年度事業報告・決算報告

資料1. 2のとおり承認

議案2: 令和6年度事業計画・予算(案)

資料3. 4のとおり承認

### 議案3: 世話人の改選

資料5について、監事を丹沢ゴミ調査会 栗林 弘樹 氏から、  
湘南自然観察クラブ石山 浩恵 氏(任期:令和6年4月～令和8年3月)に  
修正したうえで承認 (栗林氏は世話人として留任)

令和6年度丹沢大山ボランティアネットワーク世話人 ~~(案)~~

	氏名	団体名	任期
代表	小林 昭五	NPO法人丹沢自然学校	令和6.4～令和8.3
副代表	小野 均	NPO法人四十八瀬川自然村	令和6.4～令和8.3
副代表	山口 寿則	NPO法人伊勢原森林里山研究会	令和5.4～令和7.3
会計	遠藤 順一	NPO法人野生動物救護の会	令和5.4～令和7.3
監事	石山 浩恵	湘南自然観察クラブ	令和6.4～令和8.3
監事	森島 眞知子	町田グラウス山の会	令和5.4～令和7.3
	栗林 弘樹	丹沢ゴミ調査会	令和6.4～令和8.3

#### (2) 総会参加の各団体からボラネット活動等 について貴重な意見を述べて頂きました。

- 丹沢で活動している団体はいろいろあるが、ボラネットの活動が知られていない。  
ホームページやSNS等を活用して積極的にPRしていく必要がある。
- 秦野で登山道整備等に取り組んでいる若い団体がある。そういった若くて活力のある団体に参加を呼び掛けていくとよいのではないか。
- 様々な活動をしている団体間の交流を深めることが大切。ゴミ拾い活動や観察会等の参加しやすい活動の中で、一緒にご飯を食べるなど、交流が生まれやすい行事があるとよい。
- 丹沢まつり等のイベントや、傷病鳥獣救護ボランティア等、より広い対象に広報をしていくとよいのではないか。
- ボラネットの意義は、様々な活動をする団体間の交流にあると思うが、現在はボラネットの他にも、丹沢大山自然再生委員会等の協議会があり、会員が重複している。団体間の交流を目的とするのであれば、そういった協議体との重複を整理していくことを、考えてもよいのではないか。
- 講演会や外来種調査を通じて、全く異なる活動をしている団体と交流し、その活動を知ることができるのは新鮮で意味がある。また、講演会等の学びの機会も役に立っている。

### 議題4: 会則の一部改正 資料6のとおり承認

#### 4 その他

(1) 令和6年度講演会テーマについて  
「丹沢のツキノワグマの生息状況と  
共存の仕方(仮)」

今後、世話人会で講師を調整・依頼



↑写真 丹沢大山環境啓発活動の様子  
県立戸川公園会場・第68回秦野丹沢まつり  
R6年,4,21

- 丹沢では、山の上の方で活動している登山団体等の他、裾の部分で里地里山保全の活動をしている団体まで多様な団体がある。それらがボラネットという形で、皆で丹沢を守るという活動を、自然環境保全センターを活用して実施していくことは意味がある。
- 多様な団体のつながりであるボラネットでは、一つ一つの団体が元気で活力があることが大切。一つ一つの団体ができることを考え、活動していく必要がある。  
私が活動する団体では、コロナ後に、三十代から四十代の若い世代の入会希望者が増えている。そういった若い人達はSNS等で情報を発信している。  
SNSの他、映像の活用等、各団体でできることを考えていく必要があるのではないかな。

## 丹沢の緑を育む集い実行委員会の活動報告会

ボランティア団体助成事業の支援を受けた団体の報告会を行う。(4団体、内1団体欠席)

→写真

NPO 法人丹沢自然学校 五十嵐氏の発表の様子

内容

エコツアーを活用した県民参加型自然再生の実現と環境啓発教育の実践活動。



←写真

NPO 法人 野生動物救護の会 遠藤氏の発表の様子

内容

自然環境保全センター自然観察林内の野生動物の調査研究、保護活動をする。



→写真

NPO 法人四十八瀬川自然村 小野氏の発表の様子

内容

秦野市蒲浦地内での里山保全再生活動について。高木化した雑木の伐採等。



# 丹沢大山ボラネット加盟団体からの投稿

## 丹沢の奥山城 探訪記

丹沢環境推進会議 議長 小林 昭五

丹沢大山自然再生計画は、総合調査(平成16年～平成17年)等の結果を基礎に策定された。丹沢全体を高度や地形を基に、景観地域で4つに分けて、各地域の再生計画をつくりました。**奥山城、山地域、里山城、渓流域**、の4つ景観地域です。

現在は第4期再生計画(令和5年度～令和8年度)の中間評価の取組中です。今回の探訪は、その中の**奥山城(うっそうとしたブナ林の再生)800m以上ブナ林帯**の状況、観察を目的にしました。

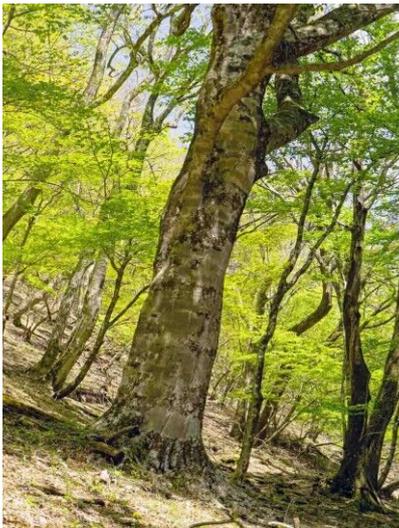
5月3日(金)AM7:00 県道70号線塩水橋から丹沢山へ登山開始です。これから登山する人は**ヤビツ峠等で登山届を忘れないでください。**

県道70号線の塩水橋の近くのゲートから塩水林道へ入り8分ぐらい歩くと瀬戸橋あります。流れる川は本谷川です。

**この橋を渡り塩水川沿いに塩水林道を歩きます。**橋を渡らない人は本谷川吊り橋地点より天王寺尾根を通り丹沢山を目指します。高度が450mなので**山地域、渓流域**に属します。



↑写真 大きな威厳のある荒々しい旧橋は通行止め  
塩水林道の終わりから丹沢山への登山道に入ります。 奥に小さく見えるのが瀬戸橋です。



いよいよ奥山城の堂平に到着 ブナ林内へは通行止めです。

←写真 堂平のブナ林

年月が経ったブナの大木が散らばって生えています。奥山城は守られています。

5月とは言え、下層の植物が少ないのが気になります。堂平から先、丹沢山までの山稜のブナの原生林は見応えがある。神奈川の貴重な自然遺産ですから次世代に遺したいです。

→写真

丹沢山東稜線(天王寺尾根へ続く)ブナ林  
植生保護柵内は下層中層植生が豊かです。



疲れながら丹沢山(1567)へ到着しました。丹沢山西側の地形、植物相を観察しました。西や南斜面山頂付近は、表紙写真や下写真に見られるように、大木に育たなく丈も低く、高木層や中木層が衰退しギャップが広いです。原因は気流等の影響かと思われる。丹沢以外でも、このような景観を目にすることが多くあります。

今までの自然再生計画実施により奥山域は、歩みは遅いが確実に再生され保護されています。

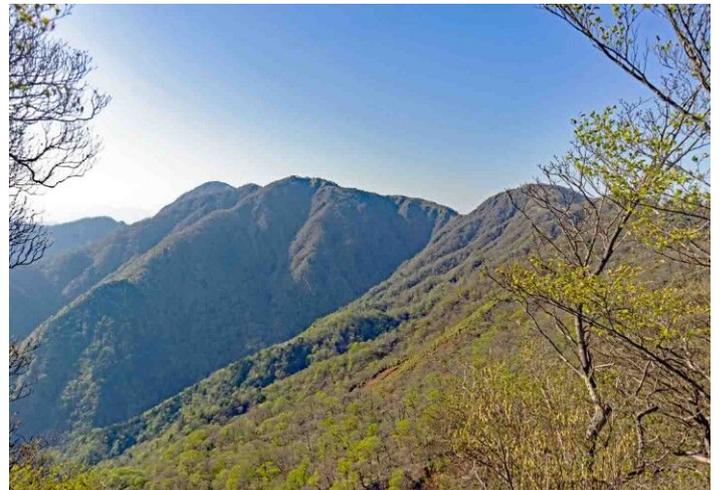
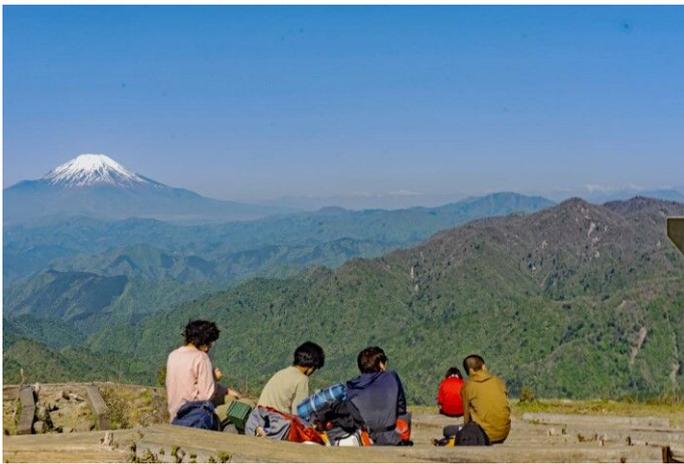


↑写真 蛭ヶ岳へ3.2kmの稜線の地点  
丹沢山付近には5月3日には  
まだマメザクラが咲いていました。

→写真 丹沢山から塔ノ岳方向の稜線景観  
東斜面の植物相は豊かだが、西側は貧弱です。

雄大な塔ノ岳(1490)へ連なる主脈縦走路を、地形や植生を観察しながら景観を堪能し塔ノ岳へ到着しました。

山頂は丹沢山のギャップのある地形とは異なり、岩場が多く整地されています。表尾根を代表する地形の典型であり、360度を見渡せる景観と表の雰囲気を漂わせていました。又、大勢の登山者で賑わっていました。



↑写真 塔ノ岳山頂 富士山が美しい  
南アルプスの山々が見えました。

↑写真 塔ノ岳から丹沢山方向の主脈縦走稜線  
奥山地域は年々少しずつだが回復をしています。

次回には「続探訪記」、木ノ又大日～塔ノ岳～金冷シノ頭～大丸～鍋割山～後沢乗越～ミズヒ大滝のコースを投稿します。

丹沢ボラネット瓦版2024年6月号(通巻118号)6月24日発行  
丹沢 大山ボランティアネットワーク世話人会代表 小林 昭五

# 丹沢ボラネット瓦版

2024年9月号 No.119



里山で見たカブトムシ（7月）

## 「夏の思い出」 (町田グlaus山の会 森島 眞知子)

夏になると思い出す…のは、昆虫採集に行く兄のあとを追いかけていた小さい頃のこと。蛹から蝶が羽化する様子や標本をつくる手元を、息を吞んで眺めていた。そして自分の子供が小さい頃は、外に虫かごを並べていろいろ飼ったが、それから数十年。もっぱら野外で虫を見て楽しむだけになっていた。

5年前の夏休み親子自然探検隊の終わりに、お土産としてカブトムシのペアをあげることになり、穴をあけたペットボトルに雄雌1匹ずつを入れる作業を仰せつかった。お土産をもらう子供たち以上に、私ははしゃいでいたのではないだろうか。

一昨年の夏、家の隣の里山で立派なツノのカブトムシを見つけ、しばし眺めてカメラに収めた。ところが今年、ベランダのサンショウについたアゲハの幼虫が無事に巣立ってやれやれと思っていたら、友人からカブトムシのつがいを買うことになった。カブトを飼うのは初めてなので本やネットで調べたり、ケースなどを準備したりと大忙し。夜行性というだけあって、こちらが寝付くころになるとガサガサゴソゴソ、ケースをよじ登ろうとしたり、たまに飛んだりと活動を始め。結局起きだして、眺めている。うまく卵を産んでくれると良いのだが…夏休みに遊びに来る孫の夏の思い出になるだろうか。



飼育中のカブトムシ

# 令和6年度水質調査の報告

報告者 丹沢大山ボランティアネットワーク世話人会

## 結果概要

- 調査か所数 22 か所  
(うち5か所は断水・水道装置故障等のため採水できず、中止)
  - 一般細菌検出箇所 2 か所  
用木沢出合、一軒屋避難小屋前水場
  - 大腸菌検出箇所 6 か所  
堂平沢、後沢乗越水場、二俣の水場、皆瀬川人遠、用木沢出合、一軒屋避難小屋前水場
- ※ 上記の一般細菌や大腸菌が検出された水場はもちろん飲用に適しませんが、一般細菌や大腸菌が検出されなかった水場についても、必ず煮沸等を行ってから利用してください。

## 丹沢大山水質調査とは

「丹沢大山水質調査」は2004年度頃から実施され始め、当初は丹沢大山総合調査の一環として行われていました。その後、丹沢大山ボランティアネットワークが引き継ぎ、現在は丹沢大山ボランティアネットワークが「丹沢の緑を育む集い実行委員会」との共催として事業を継続しています。(2020年度、2021年度は新型コロナ禍のため休止)

調査場所は丹沢を訪れる人が比較的に利用しやすく利用頻度が高い22か所を選んでいますが、そのうち5か所は、今年度断水・水道装置故障等により採水できず実施していません。

今回の水質調査には以下の丹沢大山ボランティアネットワーク参加団体の皆様に取り組んでいただきました。お忙しい中調査にご協力いただき、ありがとうございました。

- ・ 丹沢自然保護協会
- ・ 神奈川県勤労者山岳連盟
- ・ 丹沢自然学校
- ・ 野生動物救護の会
- ・ 四十八瀬川自然村
- ・ 伊勢原森林里山研究会

## 調査項目・検出基準

調査項目は、厚労省の水質基準項目および基準値を参考にして、11項目について調査しました。中でも重要な一般細菌と大腸菌について考えましょう。

一般細菌の厚労省水質基準値は100CFU/ml以下であることです。このCFU/mlという単位は、1mlの試料を培地で培養した結果、できた集団数（Colony Forming Unit）を表します。一般細菌という名前の細菌があるわけではなく、いわゆる雑菌のことで、河川や土壌、空気中や体内などに広く存在し、病原性のないものがほとんどです。しかし汚染された水ほど一般細菌が多く含まれるため、水の汚染状況を知る目安になります。

また大腸菌は、主として動物や人の排泄物や土壌生物による汚染の指標となるもので、大腸菌の厚労省水質基準値は「検出されない」ことです。

## 水質調査の結果と考察

○ 今回の調査では一般細菌が基準値（100CFU/ml）を超えて検出された箇所が2か所ありました。（昨年度は基準値を超えた箇所は無し）

18. 用木沢出合 … 928CFU/ml 非常に高い数値です

19. 一軒屋避難小屋前水場 … 101CFU/ml

基準値以下ながら一般細菌が検出されたところも6か所ありました。

1. 半原越付近 4. 堂平沢…89CFU/ml 11. 後沢乗越水場

12. 二俣の水場 15. 皆瀬川人遠 20. 犬越路ずい道水場

○ また大腸菌が検出されたところは6か所でした。

4. 堂平沢 11. 後沢乗越水場 12. 二俣の水場

15. 皆瀬川人遠 18. 用木沢出合 19. 一軒家避難小屋前水場

このうち11.12.15.18.19の5か所は昨年2023年度も大腸菌が検出されています。

○ これらを見ると、一般細菌の検出箇所と大腸菌の検出箇所は、かなり共通することがわかります。つまり、一般細菌は病原性のないものが多いとはいえ、水の汚染状況の指標となると同時に大腸菌による汚染状況の指標にもなっているということです。

○ 水場の水質は、季節やその年の気候、（コロナ禍やコロナ禍明けなどによる）人の動き、山の植生の状態、野生動物の生息動向などに大きく左右されて変化すると思われるので、数値の変動に一喜一憂するのではなく、継続的に調査を行い、同時に水質を悪化させる要因を減らす努力を継続する必要があります。

があります。野生動物は先住者なので、その行動にどうこうは言えませんが、山に入らせていただく登山者は、少なくとも登山口でトイレを済ませる、山中では必ず携帯トイレを使用するなどのルールを守りたいものです。

- 丹沢で沢水や湧き水をそのまま飲むことは、絶対にしてはいけません。どんなに冷たく美味しそうに見えても、大変に危険です。ほんのわずかでも一般細菌が含まれている水を持ち帰り常温に置けば、細菌が増殖します。冷蔵庫に入れても時間が経てば増殖します。 沢水・湧き水は必ず煮沸してから飲んでください。

令和6年度水質調査結果一覧 <上段:検査項目 中段:単位 下段:水質基準(参考)>

調査地点	採水日	硝酸態窒素及 亜硝酸態窒素											水場周辺の状況				気象の状況			
		一般細菌	大腸菌	亜硝酸態窒素	硝酸態窒素	塩化物イオン	有機物	pH値	味	臭気	色度	濁度	ゴミ散乱	野外排泄	トイレ	水場種類	天候 当日	天候 前日	気温 ℃	水温 ℃
		CFU/ml	-	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	-	-	-	度	度								
		100CFU/ml以下	検出されないこと	0.04mg/l以下	10mg/l以下	200mg/l以下	3mg/l以下	5.8以上8.6以下	異常でないこと	異常でないこと	5度以下	2度以下								
1 半原越付近	5月26日	12	不検出	0.004未満	0.4	2.2	0.3未満	6.8	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水	曇	曇	21	14
2 日向林道起点水場	4月21日	0	不検出	0.004未満	0.5	1.4	0.3未満	7.4	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水	晴	晴	18	14
3 護摩屋敷跡	5月23日	0	不検出	0.004未満	0.4	1.2	0.3未満	7.2	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水	曇	曇	19	12
4 堂平沢	5月23日	89	検出	0.004未満	0.1	0.8	0.3未満	7.4	-	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	流水	曇	曇	15	12
5 原小屋平水場	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6 黍殻山避難小屋	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7 大山 弘法の水場	5月19日	0	不検出	0.004未満	0.4	1.5	0.3未満	7.1	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水	曇	晴	18	14
8 春嶽湧水	5月19日	0	不検出	0.004未満	0.5	1.7	0.3未満	7.2	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水	曇	晴	21	14
9 葛葉の泉	5月8日	0	不検出	0.004未満	0.5	1.9	0.3未満	7.3	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	あり、約20m下流	湧水	晴	雨	20	15
10 竜神の泉	5月8日	0	不検出	0.004未満	0.7	1.9	0.3未満	7.4	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	沢水	晴	雨	23	14
11 後沢乗越水場	5月25日	16	検出	0.004未満	0.3	1.1	0.3未満	7.2	-	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水	晴	晴	16	13
12 二俣の水場	5月25日	5	検出	0.004未満	0.3	1.1	0.3未満	7.3	-	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	沢水	晴	晴	17	13
13 大倉高原山の家水場	5月26日	0	不検出	0.004未満	0.3	1.3	0.3未満	7.2	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	流水	晴	晴	21	11
14 塔ノ岳水場	5月26日	0	不検出	0.004未満	0.1未満	0.9	0.3未満	7.4	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水	霧	晴	21	11
15 皆瀬川人遠	5月8日	15	検出	0.004未満	0.5	2.9	0.3未満	7.5	-	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	沢水	晴	雨	25	15
16 西丹沢民の森	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17 仲ノ沢法面湧水	5月25日	0	不検出	0.004未満	0.4	1.3	0.3未満	7.1	正常	正常	1未満	0.5未満	落ち葉等	なし	なし	湧水、法面にパイプ	曇	曇	23	14
18 用木沢出合	6月13日	928	検出	0.004未満	0.3	1.0	0.3未満	7.6	-	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	流水	曇	曇のち晴	16	10
19 一軒屋避難小屋前水場	6月13日	101	検出	0.004未満	0.1	0.8	0.3未満	7.7	-	正常	1未満	0.5未満	ガラス片等	なし	なし	流水	曇	晴	18	10
20 犬越路ざい道水場	5月14日	10	不検出	0.004未満	0.2	1.2	0.3未満	7	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水、塩ビパイプ	晴	雨	14	12
21 犬越路 日陰沢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22 エビラ沢出合	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※大腸菌等が検出された箇所は、味の検査は不可

No5、6、16、21、22…断水、水道装置故障等のため採水できず

# 丹沢大山ボラネット加盟団体からの投稿

続丹沢の奥山域 探訪記

丹沢環境推進会議 議長 小林 昭五

## 日程コース

5月3日(金)	塩水橋→堂平→丹沢山→塔ノ岳→木ノ又大日(1396m) 小屋宿泊
5月4日(土)	木ノ又大日小屋→塔ノ岳→金冷シノ頭(きんひやしのかしら)→大丸・小丸→鍋割山→後沢乗越(うしろざわのっこし)→ミズヒ大滝(ミズヒ沢→二俣→西山林道→表丹沢県民の森)

### ■ 3日の夜は木ノ又大日小屋に宿泊しました。

15名程度宿泊できる小さな山小屋です。

特徴は、、、

#### ① 昔の懐かしいランプ小屋です。

電球が少ない時代は、ランプ使用が多く、煤掃除が手の小さな子供の仕事で役割でした。

私もランプの掃除をやらされた記憶があります。



懇談会や天体観測

#### ② 山小屋主人さんと距離が近く夕食後に懇談会やアクティビティー等がありました。

##### 【懇談会の内容】

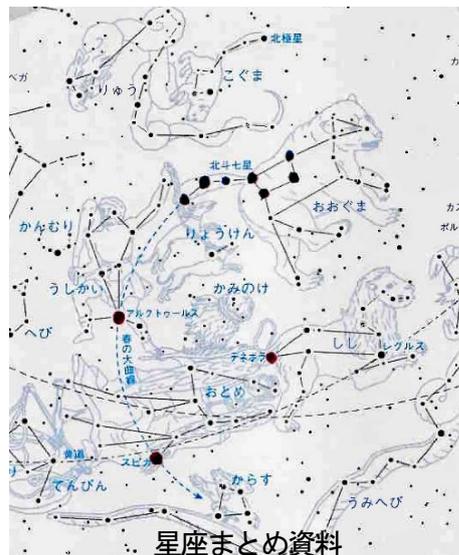
宿泊者が主人公になり、全国各地のお勧めの山等、いろいろな話が聞けて楽しかったです。

私は地元の丹沢大山ボラネットの話をし、丹沢大山登山環境意識調査冊子を置いてきました。

### ■ アクティビティー（観察体験学習会）

#### 【外での春の星座の観察会の内容】

北斗七星→うしかい座の**アークトゥルス**→おとめ座の**スピカ**→しし座の**ディネボラ**・**レグルス**等の**春の大曲線**や**春の大三角形**や**北斗七星の二重星（ミザール）**観察等を行いました。ミザールは望遠鏡を使用して観察しました。



星座まとめ資料

初めての経験でしたが、外に天体装置を設置し、小屋内に居てスマホ等で星雲等が詳しく観測できるのには驚きました。

美しい富士山等のモルゲンロートを観賞して、朝食後木ノ又小屋から塔ノ岳めざし出発しました。典型的な夏緑広葉樹林帯のブナクラス域植生に見えませんが、豊かな自然が有り、奥山域の下層・中木層の生態系の再生が見受けられます。

**ギャップのある表土が見える草原があまり見あたりません。**



富士山と塔ノ岳のモルゲンロート



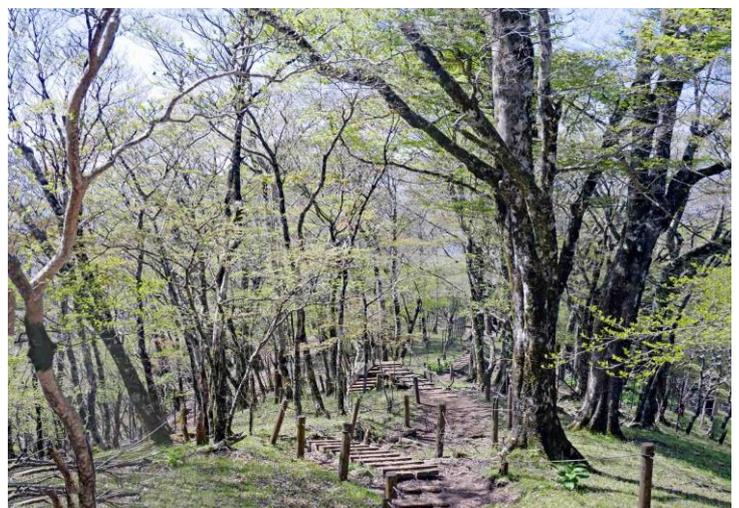
塔ノ岳の北東斜面の様子



金冷シノ頭

金冷シノ頭は、鍋割山稜線と大倉尾根の合流地点です。

登山道は比較的に良く整備されていますが、土がむき出しになっているのが気になります。丹沢では一、二を争う登山者が多い登山道路です。



大丸 (1,386m) ~小丸 (1,341m) ~鍋割山 (1,272m) 稜線のブナ林の風景

典型的な夏緑広葉樹林帯のスズタケーブナ域を見ることができます。丹沢奥山域は、冷温帯に属するので、ブナ林にヒコサンヒメシャラやミズナラ等が混じっています。

ブナの白黒模様の木肌やヒコサンヒメシャラの美しい明るい茶色の大きな木の混じる原生林は、神が宿っている荘厳な神秘性を感じさせます。

下層植生のスズタケ等が登山道両側に少ないが、ご安心ください。植生保護柵内は立派に回復し、中層もある豊かな自然が再生されています。



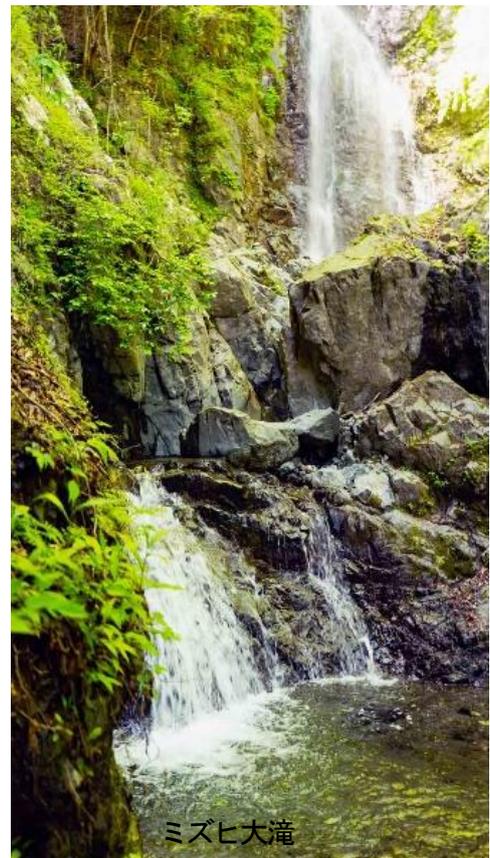
左は、鍋割山稜から見た丹沢の山々です。

手前に見える山稜は、右から小丸～鍋割山へ続いています。奥に見える山稜は、右から檜洞丸～同角ノ頭（三角のとんがり）～テシロノ頭～富士山へと続いています。

鍋割山稜から見た丹沢

ミズヒ大滝は、渓流域に属し、豊富な水を落下させています。

(終わり)



ミズヒ大滝

丹沢ポラネット瓦版2024年9月号(通巻119号)9月12日発行  
丹沢 大山ボランティアネットワーク世話人会代表 小林 昭五

# 丹沢ボラネット瓦版

2024年11月号 No.120



玄倉川溪谷（神奈川県の石、トータル岩の白い岩）

## 令和6年度丹沢大山ボランティアネットワーク講演会・交流会

厳しい残暑が続いていた9月14日、自然環境保全センターにて、講演会・交流会を開催しました。

ボラネット各団体や、神奈川県フィールドスタッフ、野生動物救護ボランティアの皆様など50名が、会場の自然環境保全センターレクチャールームに集まりました。盛況だった昨年を上回る人数です。



## 団体紹介

小林代表の挨拶に続き、山口副代表の進行により、自己紹介を兼ねて参加したボラネットの各団体から1分間ずつの団体紹介を行い、続いて2団体から、詳しく活動報告がありました。

年間に延べ1000日を超える山行を実施している町田グlaus山の会、クリーンハイクを43年間続けている神奈川県勤労者山岳連盟、「どぶろく」の醸造・販売を始めた四十八瀬川自然村など、短い時間のなかでも、各団体の個性的な活動が報告されました。また、伊勢原森林里山研究会からは「薬草を訪ねる会」のお知らせがありました。

## 報告「丹沢大山自然再生計画の進捗状況について」

自然環境保全センター自然再生企画課の内山佳美副技幹から、スライドと資料で説明がありました。

- ・丹沢大山の自然再生は市民、企業、団体、専門家や行政機関など多様な主体で構成される「**丹沢大山自然再生委員会**」が中心となって取組みを進めている。ボラネットもその構成員。
  - ・丹沢では1990年代と2000年代の二度にわたり市民、専門家と行政による自然環境の総合的な調査を行った点が大きな特徴である。
  - ・自然再生計画では、「**人も自然もいきいきとした丹沢大山**」を目標に、奥山域、山地域、渓流域、里山域ごとの課題に対する方向性を示し、多様な主体が再生に取り組んでいる。
  - ・**奥山域**ではシカの影響による自然植生の衰退に対して、**植生保護柵やシカの捕獲によりある程度の効果(変化)が見られる**。(目標達成ではない)
  - ・**山地域**では人工林の間伐が進んだほか、シカ対策の効果もあり、シカが嫌いな植物を中心に、ではあるが一定の植生回復が見られる。
  - ・一方で、**里山域の地域の再生にはもっと力を入れていく必要がある**、との意見が、再生委員会内では出ている。来年1月25日(土)には秦野市で、里山をテーマに活動報告会を開催予定。ぜひ参加していただきたい。
- 質疑では、シカ対策関係や、自然再生にどこ(いつ)まで人が手を加える必要があるのか、といった質問がありました。



## 講演「丹沢のツキノワグマについて」

長縄今日子さんに丹沢のツキノワグマ(以下、クマ)についてご講演いただきました。

長縄さんは、学生時代から、丹沢山地でクマの生態調査等に携わり、現在でも丹沢を中心にクマの痕跡調査や普及開発活動に関わっています。2012年には、仲間と「丹沢ツキノワグマ研究会」を設立し、代表を務めているほか、「日本クマネットワーク」(以下、クマネット)や「丹沢自然保護協会」、「丹沢資料保存会」の会員として、自然環境保全全般に係る幅広い活動を行っています。

また、公益財団法人神奈川県公園協会の職員として県立宮ヶ瀬ビジターセンター、秦野ビジターセンターなどに勤務し、丹沢山地の自然や登山に関する普及啓発に携わり、現在、県立茅ヶ崎里山公園に勤務されています。



長縄今日子さんによる講演

### 【主な著書】

- ・「ふるさと宮ヶ瀬・溪谷の村から」(夢工房)(共著)
- ・「丹沢自然ハンドブック」(共著)

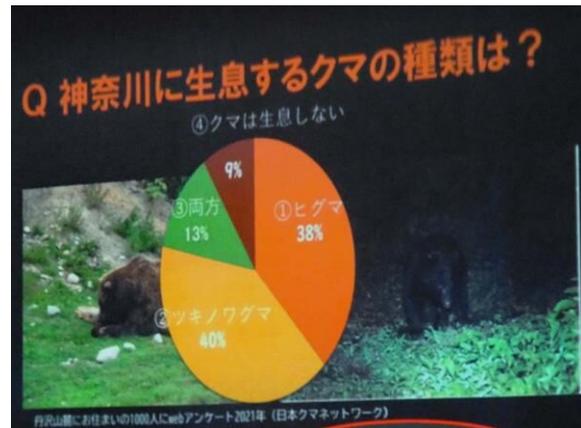
講演では、クマの生態、課題、山での対策などについて、スライドと標本やはく製などを使いながら、長縄さんが実際に調査・研究された体験などを交えてお話がありました。

以下、講演の内容を少しご紹介します。



長縄さんが用意してくださった毛皮、頭骨、胃内容物などの標本などや、自然環境保全センターのツキノワグマのはく製が会場に展示され開会前から興味津々

- ・ツキノワグマは北海道以外に生息。九州では絶滅、四国では絶滅危惧。
- ・丹沢の熊は比較的小柄な個体が多く、また、食いだめなどにより**体重の季節変化も大きい**。だいたい 40 kg ~ 100 kg の個体が多い。
- ・調査から、丹沢のクマのエサカレンダーは次のとおり。
- ・**春**：花芽や芽吹き、ササ・タケの芽のほか、死んだシカの肉も食べている。雪国では積雪下のドングリを利用。
- ・**夏**：草本、アリ、ハチなど。テンナンショウも食べる。カスミザクラ、ミヤマザクラ、オオシマザクラ、ヤマザクラなどの実（サクランボ）をよく食べ、結実に合わせて標高を上げて移動し長い期間利用する。常緑樹ではタブの実も利用。
- ・**初秋**：ウワミズザクラの実、ミズキ、オニグルミ。ミズキは豊凶の年較差少ない。
- ・**晩秋**：ヤマボウシ、コナラ、ミズナラ、ヤマグリ。ミズナラはナラ枯れの影響ある。常緑樹ではアラカシ（紀伊半島でも利用報告あり）。ブナは、丹沢が（日本海側のように）ブナ純林地域ではないので依存度は低め。豊凶差も大きい。
- ・無線発信機をクマにつけた調査（テレメトリー調査）の結果（1990年代の調査事例）では、メスの行動範囲はオスより狭めで約 33 km<sup>2</sup>、オスは約 100 km<sup>2</sup>。**オスは山北から津久井までといった広い範囲を移動**していて、特にエサが少ない年は行動範囲が広い。縄張りは持たない。6～7月が交尾期。
- ・2006～2009年に行ったクマの毛の遺伝子調査で、丹沢のクマの数は約40頭程度と推定。道志村などの山梨や東京などとの個体の往来はあるようだ。



クマネットが市民1000人に行ったアンケート結果（ヒグマがいるという回答が5割超）。正解はツキノワグマ。



・テレメトリー調査では、根上がりした木の根元や岩穴を使って冬眠していた。丹沢には洞ができるような大木は少ない。調査当時はシカの管理捕獲を行っていなかったため、高標高の特別保護地区が主な冬眠場所の一つ。冬眠しないのでは？という声も聞くが、ほとんどのクマは冬ごもりし、12月中旬から4月下旬（オス）、5月下旬（メス）くらいまでは動かない。冬眠中、猟犬等に起こされて移動する個体もいる。シカ



クマの一年（右下の指し棒はシカの角！）

- ・管理捕獲中に冬眠から起きてやむを得ず捕獲された事例もあった。
- ・ここ数年、全国的にクマの出没、被害情報が多い。県内でも人里近くでの目撃例も増えている。30年くらい前は人里に出るようなことはあまりなかった。
- ・柿、栗、養蜂、養鶏などで被害がある。放置された柿は格好の餌場となる。
- ・イノシシの罠にクマがかかる事例（錯誤捕獲）もある。手をちぎって逃げる例も。クマがかかりにくい構造・架設方法の罠を地元の方に紹介する活動もしている。錯誤捕獲はクマにとっても、捕獲従事者にとっても危険。錯誤捕獲で1足を欠損した個体は、より農作物に頼りがちにもなる。
- ・箱罠等で捕獲し、唐辛子スプレーを噴霧して山に放獣（学習放獣）も行われているが放獣場所の調整が難しい。
- ・2006年～2009年に行った堅果類の生産量調査では、豊作年のブナ＞低標高のコナラ・クリ＞凶作年のブナとなった。手入れ不足の里山林は結果的に豊富な餌場となっている。クマとの軋轢を防ぐために、クマが近づきにくい集落作りが大切。放置果樹の収穫や移動（隠れ場）となるヤブの刈払いなど。高さ60cmくらいのヤブでも、クマは身を隠して移動できる。
- ・クマに会わないためには、クマがいそうなところや時間帯を避けることも大切。春の竹ヤブや沢沿いはお互いに音が聞こえにくいこともあり危険。朝方や夕方（15時から20時くらい）は活動時間。会ったら刺激しないこと。複数で行動し、クマがいそうなところでは音を出しな



から歩く。襲われたらうつ伏せで首を手などでガード。ザックは背負ったまま（背中をガード）。リュックを置いて逃げるのは厳禁（餌を覚えてしまう）。

- ・クマの痕跡を探してみよう。木の爪あと、木から降りるときに引っかき傷がつきやすい。樹皮ハギはシカもするが痕跡は異なる。カモシカはクマと誤認しがち（丹沢のカモシカは黒っぽい個体が多く、角や耳が隠れていると見間違ふ。）
- ・2012年から、丹沢ツキノワグマ研究会で、痕跡調査などを1～2か月に1回くらいのペースで実施。フン分析で調査した種子を自然環境保全センターに提供して苗木にしている。クマは消化率が低いのでフン中の種子をアカネズミなど他の生物が利用することでさらに種子が移動する。
- ・クマは生態系を代表するアンブレラ種と言われ、クマが棲み続けるためには豊かな森林が必要。クマについては誤解が多く正しい理解も必要。

質疑では、クマの行動や食性などについて、多くの質問がありました。科学的に未解明なことも多いようですが、長縄さんの豊富な経験から、分かっている範囲で丁寧にご説明いただきました。

閉会のあいさつでは、小野副代表が、活動地の水田で見られるカヤネズミの巣について触れ、また、今後の団体間の交流に期待して会を閉じました。

## 丹沢大山ボランティアネットワーク講演会・交流会アンケート集計結果

1 今回の講演会・交流会の満足度を教えてください。

大変満足 67% やや満足 33% やや満足していない・満足していない 0%

2 1のように感じた理由（一部抜粋）

- ・“丹沢大山”、“丹沢のクマ”共に最新のお話を聞くことができとても有意義でした。自然再生では市民活動と息の長い活動が最重要と再認識できました。
- ・説明が丁寧でわかりやすかった。クマが棲み続けることが出来る豊かな自然は人間にとっても生き物にとっても豊かな自然である。
- ・各団体の取り組みを知るきっかけになったこと。各団体の課題を知れたこと。（もっと交流を深めたい）



クマによる樹皮剥ぎ（クマハギ）

# 門田 真人先生を偲ぶ

## 丹沢大山ボランティアネットワーク世話人会

地質学者 門田真人先生がお亡くなりになりました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

2004年から2020年の長年に亘り「夏休み親子自然探検隊」の運営や講師として多大な援助を頂いてきました。

本当にお疲れ様でした。

本当にありがとうございました。

門田真人先生を偲んで先生の功績や活動の様子を紹介します。



### 業績1 地質学分野

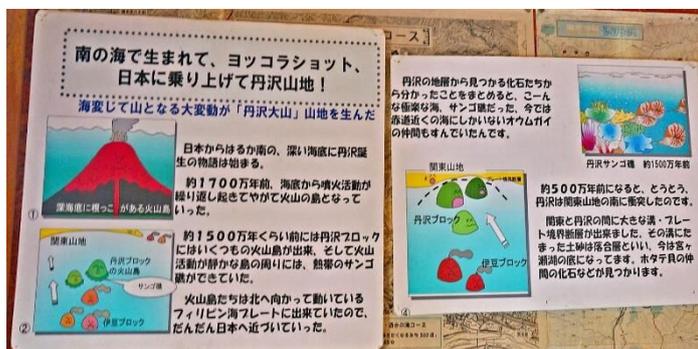
「丹沢はやっぱりトロピカルアイランドだった」を唱え丹沢岩石の中に熱帯の珊瑚礁化石を探索し発見しました。

↑ 2015.7.25 山北町ふるさと交流センター

→写真 2015.7.25

夏休み親子自然探検隊の時、ひょうたん島のように、南海から火山島が日本列島に近づき乗上げる説明文

門田先生等が子供達や大人に向け、興味を喚起し理解し易い展示をしました。



→写真 2015.7.25

門田先生等が丹沢から収集されました珊瑚の化石と現物の珊瑚展示



プレートテクトニクス理論による丹沢の生い立ちを説明する裏付けとなる丹沢の珊瑚化石の発見に貢献されました。以前の理論は同じ場所での造山運動でした。

業績2 皆瀬川の巨大岩石群の石灰岩を  
発見しその保存に努め、そして皆瀬川の  
丹沢内での価値を見だし、野外探検活  
動のコースを開発しました。

丹沢研究者も、親も子供達も最適な探  
求学習が出来るようになりました。そして  
丹沢地域の環境教育や人材育成に務め  
ました。

→写真 2016,7.23

山北町ふるさと交流センター

皆瀬川探検活動のための事前学習の様子



→写真 2016.7.23

皆瀬川神縄(かななわ)断層での説明の様子

現地で見物を見せ、掲示板を使用し分か  
り易く説明していました。門田先生の落ち着  
いた分かり易いお話には驚愕します。

人が立っている場所→足柄層群(新しい地  
層)

後ろの高い崖→丹沢層群(古い地層)

上の地層が古く、下の地層が新しいので大逆転が起こっています。

神縄逆断層の学習には最適な場所です。



↑ 2016.7.23 巨大石灰岩を磨いて保存  
に貢献 丹沢環境啓発体験活動の様子



↑ 2019.7.24山北町人遠皆瀬川の石灰岩

業績3 神奈川県石(化石)、丹沢層群の珊瑚化石指定に貢献しました。

門田真人先生は丹沢研究や人材育成に多大な貢献をされました。  
ありがとうございました。安らかに休息ください。

## 丹沢大山ボランティアネットワーク団体からの投稿

### 第42回清掃登山活動報告

NPO 法人みろく山の会

2024年5月11日(土)に、みろく山の会では表丹沢の清掃活動を行いました。

去年は豪雨で中止となりましたが、今年は277名の会員が、12コースの清掃に参加し、可燃ごみ41.2kg 不燃ごみ215.4kg 計256.6kgのゴミを収集いたしました。

緑多い丹沢が後世に残るような気持ちで、参加した会員もリフレッシュした一日となりました。なお、詳しい活動の内容はホームページでもご覧いただけます。

[https://npo.mirokuyamanokai.org/activities/shizen\\_hogo/seisou/seisou-42](https://npo.mirokuyamanokai.org/activities/shizen_hogo/seisou/seisou-42)



9コース活動2



11コース活動1

丹沢ボラネット瓦版2024年11月号(通巻120号)11月26日発行  
丹沢大山ボランティアネットワーク世話人会代表 小林 昭五

# 丹沢ボラネット瓦版

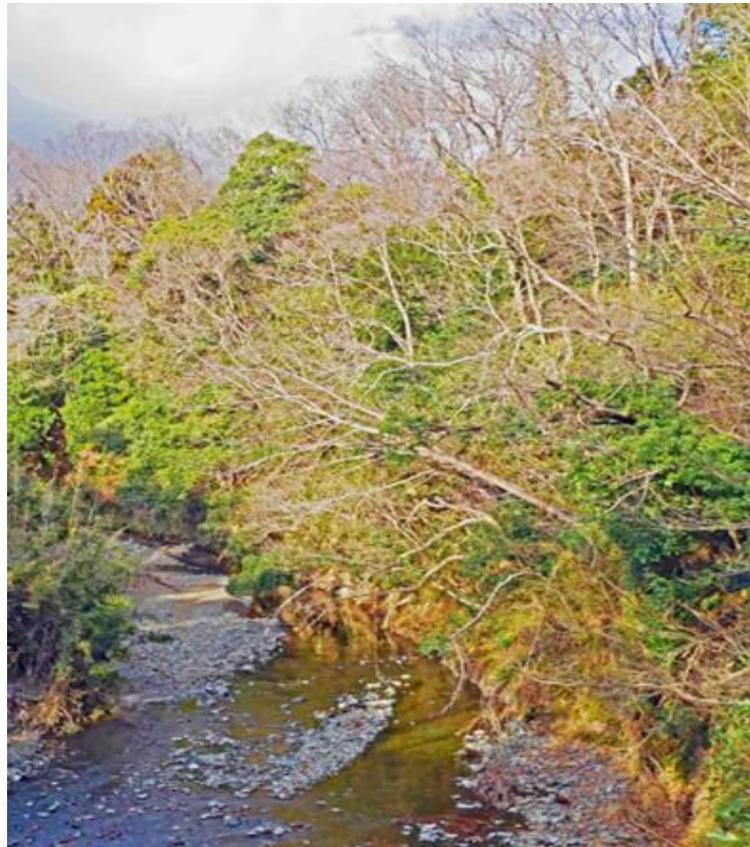
2025年3月号 No.121



↑写真 秦野盆地・富士山・表丹沢山塊(雪の表尾根→三の塔→岳ノ台→大山)

→写真

↑写真の秦野市内中心に  
有る葛葉峡谷  
くずはのつり橋上から撮影



2024年度は「丹沢大山自然再生活動報告会」が秦野市で開催されました。世話人会代表小林様が調報告会の内容をまとめくださいました。

## 丹沢大山自然再生活動報告会への参加報告

2025年1月25日

報告者 ボラネット世話人会 代表 小林 昭五

### 2024年度 丹沢大山自然再生報告会

#### テーマ「水源地域の森と水をつなぐ里～丹沢の里山再生を考える～」

日時 令和7年1月25日(土)  
会場 秦野市保健福祉センター 3階  
主催 丹沢大山再生委員会 共催 神奈川県・秦野市

12:00～ 開場・展示開始

#### 12:10～ 第一部 活動報告

報告① 秦野の森林・里山・水辺の取り組み

秦野市環境産業部環境共生課 課長 谷 芳生氏

報告② ボランティア団体による里山での活動と課題

はだの里山保全再生活動団体等連絡協議会 比田井 昌英氏

報告③「秦野っ子×子どもヤマビル研究会交流会」の活動

丹沢MON合同会社 桐生 克明氏

#### 14:20～ 第二部 シンポジウム

基調講演

かながわ水源環境保全・再生対策による水源林の再生

名古屋大学大学院生命農学研究科 五味 高志氏

14:50～話題提供① 近世丹沢山地の景観と環境～広大な草原と地域利用～  
平塚市博物館 早田 旅人氏

話題提供② ホットケない！ 丹沢の淡水魚～里山のホトケドジョウ～  
かながわ淡水魚復元研究会 勝呂 尚之

15:30～ 総合討論

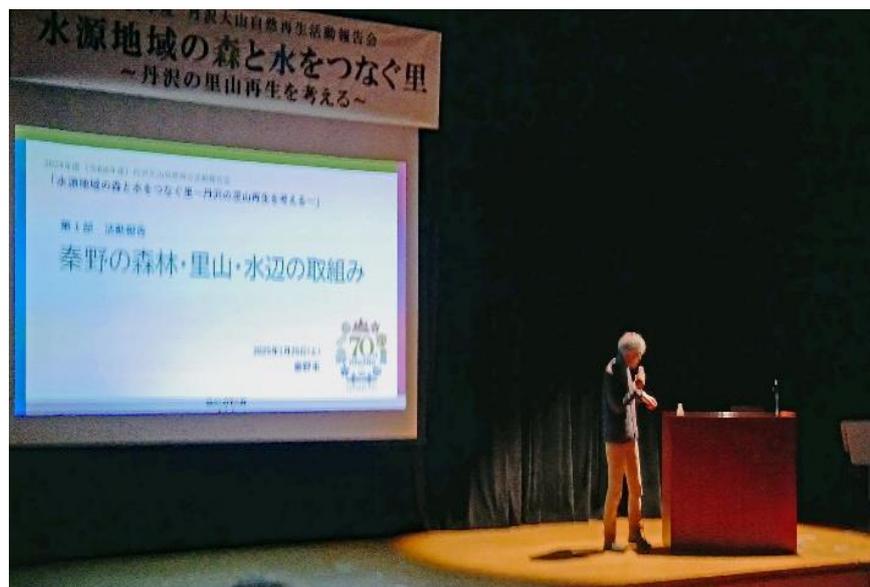
16:30 閉会・展示終了

## 活動報告会とシンポジウム

丹沢大山再生委員会の勝山輝男委員長の挨拶から始まりました。

### 第1部 活動報告

報告① 今回の開催地秦野市の環境共生課谷芳生課長の報告が行われました。



↑写真 谷芳生氏の報告の様子

秦野市は以前、日本の三大葉たばこの産地でしたが、たばこ栽培の衰退後、里地里山が荒廃しました。そこで2000年以後、里地里山の保全・再生・活用をするため、各地で里地里山保全活動団体による再生活動が活発になりました。

2004年に環境省から「里地里山保全再生モデル事業」に選定され、更なる活性化が起きました。その中で「はだの里山保全活動団体等連絡協議会」が発足し、約35団体が現在、活発に再生活動を行っています。

市街地に位置する広大な葛葉緑地には、拠点として「秦野市くずはの家」が有ります。くずはの家職員や様々のボランティアスタッフが協力して、豊かな自然環境の保全や環境教育や未来を担う人材の育成等をしています。

午前中には、その葛葉緑地で体験活動をさせていただきました。(後半部分に報告あり)

報告② 比田井氏から本協議会のボランティア団体が活動する様子と課題について説明がありました。

例として「渋沢丘陵の里地里山を楽しむ会」等の多角的活動(下草刈り、間伐、山道補修、椎茸栽培、東海大学生との共働)が発表されました。

課題は「会員の高齢化問題」、「新会員が集まらない」等、神奈川県全体のボランティア団体が抱える問題と共通しています。

報告③ ヤマビルへの向き合い方を新しい視点で取り組んでいて、今風な環境啓発対策が示されました。



↑写真 ヤマビル釣り大会ポスター

発表内容は次のようです。

- ①ヤマビルについての正しい知識を研究体験の中で得る事が大事ある。
- ②三重県のヤマビル研究会の子供達との交流会の中で、ヤマビル捕りに夢中になった事から本年度は「ヤマビル釣り大会」を軸に活動計画をしている。

## 第2部 シンポジウム

### 基調講演

五味氏は丹沢地域の水源林への、再生対策について話されました。

水源環境保全税を活用して水源涵養事業等を進めて、一定の成果を出しているが、気候変動による豪雨等の激甚化への対策も必要であり、満足は出来ない。

それには多方面からの対策を取り入れることが大切である。人工的な構造物(ハード対策)ばかりでなく森林、水田、河川等の生態系復元など、自然に基づく解決策(NbS)も大切である。等話されました。



↑ 写真 五味氏の基調講演の様子

### 話題提供

#### 話題提供① 早田氏のお話し

江戸時代の丹沢秦野地域の善波村では、豊かな草山が広く有りました。ところが新田開発により減少し、秣(馬草)場利用で争いが起こりました。

開発と秣場利用の競合、矛盾が見えます。

その当時の丹沢山地には現在と比較できない広大な草山が広がっていたと考えられます。現代の地域開発と自然保存に似ています。

#### 話題提供② 勝呂氏のお話し

多々良沢の報告の中で触れられましたように勝呂氏はボラネットが環境保全センター観察園の「池の外来種駆除と生き物調査」事業の時に、御指導をいただいた先生です。

先生はホトケドジョウの住める環境の保全や復元に取り組んでいます。  
ホトケドジョウは山麓の谷戸や平野部の豊富な湧水の源流域等に棲息しています。現在、全国的に開発等で湧水の消失により、棲息域が減少しています。



↑写真 早田氏の話題提供の様子



多々良沢(県自然環境保全センター)の保全

- 経緯  
・相模川水系の多々良沢において、ホトケドジョウの調査と外来種駆除を実施し、本種の産卵・成長・越冬などのデータを取りながら生息地を保全  
・水産技術センター・保全センター・旧神奈川ウォーター・ネットワーク・他市民団体
- 現状  
・標識放流調査(入れ壘)により移動生態を解明  
・アメリカザリガニ、ブルーギルなどの外来種を駆除  
・ホトケドジョウの生息数が安定  
・外来種対策を楽しく!



↑写真 勝呂氏の話題提供の様子と保全センター池と沢の生き物等

## 総合討論

再生委員会の司会秋山氏を含め5名の登壇者を中心に会場の参加者と話題の提供内容や里地里山について話し合いが行われました。

丹沢地域では、未来のあるべき姿が各個人団体、地域により、固有なものを持っている。互いに意見を出し合い共通理解の基に地域で活動する事が望ましい。等自然再生へ向かって良い討論が出来ました。



↑写真 総合討論会の会場の様子

### 展示部門(ポスター展示発表)

明るい広い部屋に、再生委員会の補助金で行われた研究成果や秦野市関係のボランティア団体の、活動内容等がポスター展示されました。

大勢の参加者がゆっくりと見学していました。発表者に質問をされている方もいました。内容的に、よく研究された充実した研究発表で、文書発表とも言える内容でした。





↑写真 各団体活動成果の展示発表の様子

## 秦野市くずはの広場の体験会報告

最初に秦野市の谷課長より葛葉緑地の話と本日案内人二名の紹介が行われました。案内人は、くずはの家所長 高橋 孝洋氏と、OMOTANガイド 森林セラピー 小泉 俊江氏でした。



↑写真 くずはの広場のガイダンスの様子

二班に分かれて、くずは広場の体験会を行いました。くずはの広場内の観察コース林の一部は、葛葉峡谷地形を模してレイアウトされています。



↑写真 くずはの広場地形と自然の様子案内マップ(一例)

このような観察ガイドが発行されています。クロモジの木の場所では香り等について話がありました。

森林セラピーは五感を働かせ心身を健康へ案内することです。触る、味わう、香りを嗅ぐ、聞く、見る経験等を大切にします。

植物やどんぐり等観察では、名前を知るばかりではなく、五感を持って触れたり嗅いだり体験活動をしました。



↑ 写真 小泉講師のクロモジブレンド茶を味わっている様子  
左から二人目が森林セラピーガイドの小泉俊江さんです



↑ 写真 高橋講師説明の様子



↑ 写真 くずは峡谷の吉沢ローム層の説明

→写真写真

Kmp-1~Kmp-11

吉沢(きさわ)ローム層

K 吉沢

m ミドル(中部)

P 軽石(pumice)

箱根火山からのローム層  
で年代が分ってる地層  
です。



## 葛葉緑地(峡谷)の成り立ちと自然

葛葉(峡谷)緑地は神奈川県ナショナルトラスト第1号指定地です。金目川、葛葉川、水無川の複合扇状地に秦野断層が加わり峡谷が生まれました。

箱根火山の吉沢ローム層(Kmp1~Kmp12)の上には岩倉礫層が有り、下には葛葉台礫層が有り、13万年~5万年前に形成されました。

二つの礫層や河原の岩石はグリータフ(緑色凝灰岩)で丹沢山地(丹沢層群)から運ばれてきました。

葛葉緑地には、600種以上の植物や豊かな自然があります。ここは市民、県民の体験学習のために最適な場所となっています。



↑写真 ハンノキ林の中のトンボのせせらぎ、水生昆虫やゲンジホタルの繁殖地  
ハンノキはカバノキ科の落葉高木で湿地を好みます。田んぼの周囲に  
植えられ、昔は農業に利用されていました。

葛葉峡谷の葛葉川には、くずはのつり橋が架かり、峡谷の見学や河原へ降りたり、金目川方向への良い交通路になっています。

高橋様、小泉様、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。  
又秦野市の皆様には、配車等良い援助いただき、ありがとうございました。



↑写真 くずはのつり橋



↑写真 朽ち木の中のタマムシの幼虫

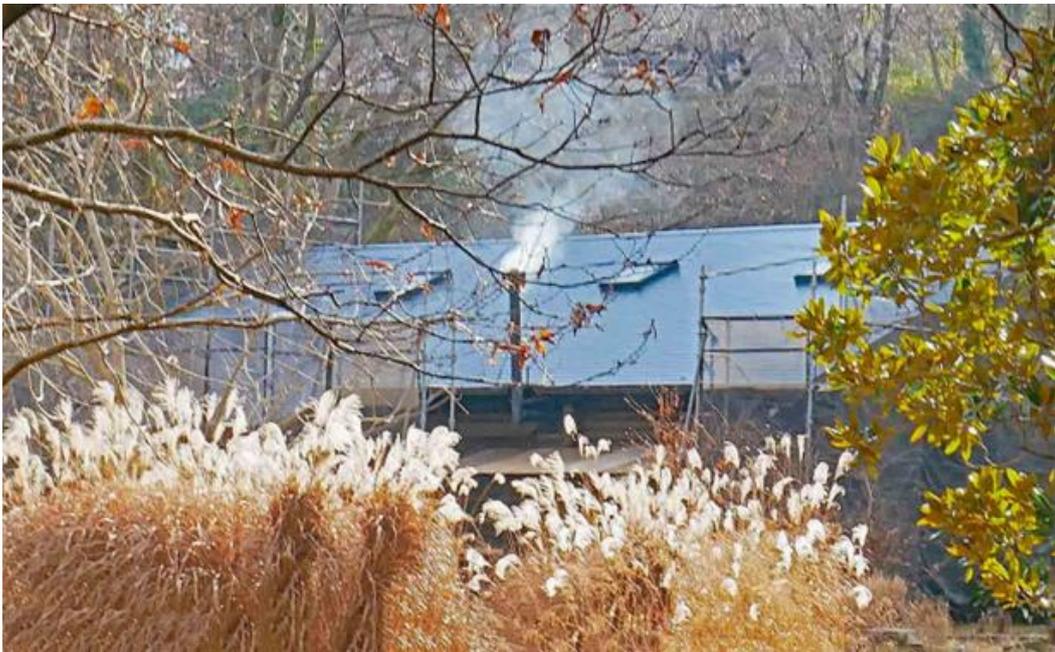


写真 工事中のくずはの家